



Newsletter

No.80

2019年5月10日

発行 レイバーネット日本

〒173-0036 東京都板橋区向原 2-22-17-108

http://www.labornetjp.org

labor-staff@labornetjp.org

電話 03-3530-8588 FAX 03-3530-8578

関西生コン事件・労働組合つぶしの大弾圧が始まった！

— 「ビラを撒くだけでその手に縄をかけ」 —

「ビラを撒くだけでその手に縄をかけ」(奥徒)は、レイバーネット川柳班の4月句会で寄せられた川柳だ。ストライキが「威力業務妨害」、ビラ配布が「恐喝」など、労働組合の正当な活動が「犯罪」とされ、次々に組合員が逮捕・起訴される事件が、昨年8月から現在に至るまで続いている。「関西生コン支部弾圧事件」である。関西生コン支部は、産業別労組として関西生コン業界に大きな影響力があり、経営者団体にとっては「邪魔な存在」だった。また安保法制反対や沖縄反基地運動でも先頭に立ってきた組合で、安倍政権からすれば「目の上のタンコブ」だった。これは一組合の問題ではなく、労働基本権の根幹にかかわる大問題である。いま「支援する会」がつくられ「緊急署名」などの取り組みが始まっている。

〈関西生コンへの弾圧は、私たちの問題です〉

土屋トカチ

関西生コン。正式名は、全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部。関西生コンに対する弾圧とは、2017年末に関西生コンが行ったストライキを契機にはじまり、現在まで、のべ58名の逮捕者が出ている事件を指します。労働組合としての当然の行為であるストライキ。これに対し、警察、裁判所、検察が一体となった弾圧行為が続いています。去る4月15日、に「関西生コンを支援する会」行われた結成総会にて、ジャーナリストの竹信三恵子さんはドイツの牧師マルティン・ニーメラーの詩を引用しました。

ナチスが最初共産主義者を攻撃したとき、私は声をあげなかった

私は共産主義者ではなかったから

社会民主主義者が牢獄に入れられたとき、私は声をあげなかった

私は社会民主主義者ではなかったから

彼らが労働組合員たちを攻撃したとき、私は声を



デモする全日建労組

あげなかった

私は労働組合員ではなかったから

そして、彼らが私を攻撃したとき、私のために声をあげる者は、誰一人残っていなかった

そして竹信さんはこう続けました。「いま日本で起きていることは、総合的な状況で言うならば、ニーメラーが言っていること。この事件の他にも、似たような状況が、あちこちにつくられています。弁護士への大量懲戒請求、相次ぐニュースキャスターの解雇、朝日新聞への攻撃、研究費をめぐる研究者への攻撃などです。他人事ではなく、自分事として、声をあげなければ、私たちに未来はありません。一緒に、はねかえしましょう！」と。(レイバーネット事務局長)

〈箱根を越えて支援を広げよう！〉

井上俊幸

▼今まさに戦後日本労働運動史に特筆される大弾圧が労働組合に襲い掛かっている。全日建連帯労組(連帯ユニオン)関西生コン支部に対する警察の不当逮捕である。▼昨年八月以降、既に五六名が滋賀・大阪で不当に逮捕され二名が起訴された。今も和歌山・奈良・京都で逮捕を見据えた不当な捜査が行われている。▼事由はどれもが労働組合の正
 <4ページへ続く>

〈レイバーネット2019年の活動案内〉

1. 『反戦川柳句集』出版記念シンポジウム

5月19日(日)14時 スペースたんぼぼ

2. レイバーネットTV 2019年前期

140号放送: 5月22日(水)

「No Weapon! 一死の商人はおことわり」

141号放送: 6月19日(水)

「オリンピックおことわりTV」

142号放送: 7月17日(水)

「参院選をどうみるか」

場所=スペースたんぼぼ(19.30~20.45)

視聴サイト= <http://www.labornet.jp.org/tv>

3. レイバー映画祭2019

8月3日(土)10時~16時50分

田町交通ビル6Fホール

4. 合宿

10月5日(土)~6日(日)

SCATセミナールーム「毛呂分室」

5. レイバーフェスタ2019

12月21日(土)田町交通ビル6Fホール

*詳細は順次ホームページに掲載します。

ネットワークづくり、メディア発信を広げよう！

ーレイバーネット 2019 総会報告ー

2019年3月16日、「レイバーネット2019総会」がスペースたんぼぼで開催された。第二部では特別企画「企業ファースト化する日本と私たち」（竹信三恵子さん講演）もあり、参加人数は過去最高の40人をこえた。第一部では、経過報告（土屋トカチ）、会計報告につづき、「2019年活動方向のポイント」（松原明）と題して、以下の報告があった。そして各プロジェクトの報告、ディスカッションが活発に行われた。

< 1 情勢 >

あらゆる面でアベ極右独裁政権の矛盾がより深まった。働いても食べられないワーキングプア、年金では暮らせないシニアなど、長時間労働、うつ病等々、労働者の環境の悪化が続いている。その不満をそらすために、対中国・韓国・北朝鮮への敵視政策や改元・五輪などを通じて「ナショナリズム」高揚が図られている。関西生コン支部弾圧、東京新聞・望月衣塑子さん事件をはじめ、「声を上げる人々」への弾圧も露骨だ。厳しい状況がつづくが、民衆側・労働者側の声を広げるためネットワークづくり、メディア発信をつづけたい。

< 2 世代交代、シニアからミドルへ >

世代交代は徐々にではあるが進んできた。「老人力」+ミドル、そして若者へも広げたい。「ブッククラブ」「シネクラブ」などはそのキッカケになりうる。

< 3 メディア活動・文化活動 >

「継続は力なり」。ウェブサイトやレイバーネットTVなどのメディア活動の一層の質的・量的拡大を計りたい。「アクティブ・ラジカル・ポリティカル・ダイバシティ」（運動的・根源的・メッセージ性・多様性）、当事者が自ら発信することに「私たちのメディア」の特徴がある。レイバーネットTV・映画祭・フェスタなどを通して、可能性を広げていきたい。「映画ムーブメント」（つくる・見せる・変える）の定着をはかりたい。

< 4 プロジェクト活動の推進 >

川柳班・レイバーネットTV・国際部・報道部などプロジェクトによる組織的・継続的活動が成果をあげてきた。「ブッククラブ」「シネクラブ」の



活動も順調に進んでいる。川柳班は半年かけて「反戦川柳句集」を発行し、大きな成果をうんでいる。ことしも意識的にプロジェクト活動を広げていきたい。

< 5 技術講座・例会・合宿など >

ことしも技術講座、例会、合宿に取り組みたい。技術講座では、ウェブサイト記事アップ・デスク機能の強化が課題。また動画編集ができる人を増やしたい。

< 6 労働運動との連携 >

昨年、「現実の労働運動（組合）との連携が弱い」との指摘があった。この批判を受け止め、今後の活動に活かしていきたい。

* * *

ディスカッションのなかで具体的に出たことでは、「スマホから簡単に動画投稿ができないか」という提案があった。またこの間広がっている「映画ムーブメント」をいっそう強めていこうとの確認がされた。運営委員については新規に女性3人が加わり、また顧問だった伊藤彰信さんは運営委員を降りることになった。伊藤さんからは「レイバーネットは労働運動が弱くなっている。私は労働運動強化のために賃金闘争に力を入れたい。レイバーネットとは齟齬を感じてきたので今回降りるが、一会員として頑張りたい」との発言があった。なお2018年度の財政は年初は厳しかったが、その後のカンパの集まり、各イベントの成功などがあり大幅に改善した。2019年度の予算はほぼ前年踏襲だが、事務所維持費を月2万円から3万円に増額することを決めた。

● 2019年度運営委員 計34人 順不同

河添誠（共同代表・都留文科大学非常勤講師）・安田幸弘（共同代表・技術部）・尾澤邦子（共同代表・ノレの会）・松原明（共同代表・ビデオプレス）・土屋トカチ（事務局長・映像グループ「ローポジション」）・佐々木有美（事務局次長・ビデオプレス）・高幣真公（国際部・日中労働情報フォーラム）・杜海樹（ライター）・安齋徹雄（出版ネット）・岩川保久（翻訳家）・木下昌明（映画批評）・森広泰平（アジア記者クラブ）・須田光照（東京東部労組）・下見徳章（郵政ユニオン）・ジョ

ニーH（音楽班）・笠原真弓（川柳班）・杭迫隆太・乱鬼龍（川柳班）・堀切さとみ（映像制作者）・西中誠一郎（ジャーナリスト）・山口正紀（ジャーナリスト）・白石孝（官製ワーキングプア研究会）・前田健司（レイバーネットTV）・稲垣豊（国際部）・長島信也（「笑い茸」発行人）・根岸恵子（アクティビスト）・金野正晴・小山帥人（関西）・井手窪啓一（関西・なかもユニオン）・大椿裕子（関西）・奥山貴重（会計監査）・〔以下新規〕見雪恵美（レイバーネットTV）・北穂さゆり（レイバーネットTV）・渡辺照子（ブッククラブ）

新 運 営 委 員

●発信力を高めていきたい

渡辺照子



「シングルマザーで同じ派遣先に約17年働いていましたが雇い止めになりました」といった感じのキャッチフレーズを自分で勝手につけて活動しております。2017年末に雇い止めにあつてからの私

の行動を依草太さんと松原明さんに撮影していただいたり、ブッククラブという充実した読書会に参加したりと、本当にお世話になっています。私は長年、女性・シングル・シニア・非正規労働者という属性を自分のポリティカル・アイデンティティとして活動してきました。そしてそれらの属性による当事者が運動の主体者である、中心であるの思いをいかに具現化するかを課題として掲げてきました。それには、当事者が発信力をつけることが必要です。社会運動、とりわけ労働者の運動には労働者自身の発信力の向上が欠かせないと思います。このレイバーネットの素晴らしい皆さんから学びながら自分の発信力を高めていけたらと思います。そして、全ての 이슈にジェンダーの視点を反映させていきます。

●戦争への道をとめる活動をしたい 見雪恵美



この度、レイバーネット運営委員になったカメラマンの見雪恵美です。といってもまだまだ未熟なので勉強の連続です。しかし、足を怪我してから半年以上が経過し、なかなか取材にいけない日々が続いています。今、世界は戦争の道へと、どんどんむかっていっているのを感じています。沖縄の面積の70%以上が基地。そこからベトナム、アフガニスタン、イ

ラク、シリア、イスラエル、パレスチナへの戦争のために出撃しています。また、辺野古、高江、伊江島、与那国、石垣、宮古、奄美に新たな基地を拡大しようとしています。日本政府は世界戦争に挑んでいるアメリカと協力し、破滅への道へむかっています。それから、大阪維新が「都構想」という名のもとで憲法改憲を安倍政権と共にしようとしています。この危機的状況を打破するためには沖縄からの基地撤去、そして新基地をつくらせない、またアメリカからの武器購入をやめさせる、大阪で独裁をねらっている維新をなくす、などをする事だと思っています。小さな力でも、世界中の一人一人の力が結集すれば止められると思います。はやく足を治して動けるようになり、みなさんと一緒にがんばりたいと思います。

●埋もれた社会問題を作品化したい 北穂さゆり



メディアが取り上げない、埋もれた社会問題を作品化し、後世に残す仕事をしたいと考えてきました。現在わたしが抱えるテーマは以下の5つです。

①納得いく補償制度が確立しないアスベスト公害被害 ②延命措置をしないことが「尊厳ある死」であるとのプロパガンダが高まる中で、一部の高齢者、難治病患者がチャレンジングな医療を望みにくくなっている現状 ③厳しい介護事業のしわ寄せを受け、不安を抱く障がい者福祉 ④日本人になじみのないアニマルライツの概念を広め、人間の生活や娯楽のために殺される動物の数を減らす ⑤非正規・派遣・請負労働者で構成される地元労働組合のメディア活動をサポートする。以上が現在、わたしに与えられた課題です。社会運動では声を上げることが大切といわれますが、声は小さくとも伝えたいことがある人や、話す言葉もない生命に寄り添い、その代弁者でありたいというのが、わたしが目指すレイバーネットでの活動です。

<レイバーネット 2018 年度会計報告>

会計年度 2018年1月1日～12月31日

【基本財政】

●収入

会費	1,254,000円 (418件)
カンパ	511,760円
雑入	13,581円
小計	1,779,341円

●支出

ニュースレター印刷費・発送費	232,002円 (3回分)
会議・取材交通費	294,520円
大封筒印刷費	35,089円
運搬タクシー	10,590円
会場費	83,840円
送金手数料	27,794円
消耗品文具	31,177円
謝礼 (講師・依頼原稿など)	23,000円
JCA-NET サーバー	16,7480円
事務所維持費	240,000円 (月2万円)
国際部活動費 (翻訳)	75,000円
技術部ウェブ管理費	2,000円
備品類	46,552円
小計	1,339,044円

★基本財政 440,297円 (a)

【特別会計】

●レイバー映画祭 2018

収入	421,412円
支出	233,632円
差引	187,780円 (b)

●レイバーフェスタ 2018

収入	358,120円
支出	282,725円
差引	75,395円 (c)

●レイバーネット TV

収入	TV サポーター会費 284,000円
	カンパ・ドリンク売上げ 21,310円
小計	305,310円
支出	放送一式10回分 259,000円
	打合せ・機材その他 17,020円
小計	276,020円
差引	29,290円 (d)

●レイバーネット川柳班 (句集財政)

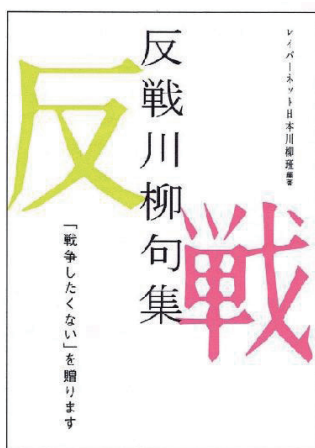
収入	145,900円 (賛同金83,000円、売上げ62,900円)
支出	88,745円 (制作費一部/その他)
差引	57,155円 (e)

★2018年度の決算 (a) + (b) + (c) + (d) + (e) = 789,917円

★2017年度よりの繰越金 54,031円
差引残高 843,948円 (2018年12月31日)

『反戦川柳句集』出版記念シンポジウム 崖っぷちの時代と川柳

出版記念シンポジウム



2019.5.19
会場 スペースたんぽぽ 14:00~17:00 (開場13:30) 参加費 500円
〒千代田区三崎町2-6-2ダイアニックビル4F TEL 03-3238-9035

レイバーネット
日本川柳班が2018年12月に発行した『反戦川柳句集—「戦争したくない」を贈ります』を記念して、下記のシンポジウムを開催します。第一部では豪華ゲスト4人が川柳を語ります。

●第二部 みんなでディスカッション コーディネーター=乱鬼龍

日時：2019年5月19日(日) 14:00~17:00
参加費：500円
会場：スペースたんぽぽ
問合せ/予約：レイバーネット日本
TEL03-3530-8588

長年私たちの川柳に心を寄せていただいている川柳作家の高鶴礼子さん、プロレタリア文学研究家の棚沢健さんのほか、この度寄稿していただいた宇部功さん(いわて子ども川柳を育てる会会長/長年川柳家鶴彬を小学生に教えている)、石川県の寺内徹乗さん(鶴彬の生地、石川県高松市の鶴彬を顕彰する会幹事)をゲストにお迎えしてお話を伺います。2部ではコーディネーターの乱鬼龍さんを中心に、会場全体でフリーディスカッションを予定しています。どうぞご参加ください。

●第一部 ゲスト=高鶴礼子・棚沢健・寺内徹乗・宇部功

新会員紹介

●地元青梅市の活動や森友問題にかかわる 加藤弘吉

現在、地元青梅市での活動と森友ごみ問題を考える会の活動が中心に行っております。特に森友事件の究明をごみ問題から野党議員と共に追及しており、8億円の値引き根拠は崩壊した状況に追い込んで来ております。そして、遂に事件の当事者である籠池夫妻と元NHKで森友事件のスクープした相澤冬樹記者を迎えて事件の真相を語って貰うため、5月24日に文京区民センターにてシンポジウムを開催しますので、多くの方の参加をお待ちしております。開催案内チラシができれば改めてご案内させていただきます。なお、地元での活動は市民連合はじめ「市民アクション@東京25」を中心に横田基地のオスプレイの問題等についても活動しております。宜しくお願いします。

●「風車の便り—戦場ぬ止め音楽祭2019」 曾根原俊一

新会員の曾根原(翠羅白)と申します。民意を踏みにじり、辺野古の大浦湾と沖縄の人々の心を埋め立てる暴虐に心を痛め憤るミュージシャンや芝居者によって結成された「風車の便り—戦場ぬ止め音楽祭2019」実行委員会代表です。5月31日午後3時から、上野の水戸音楽堂でコンサートを開催します。7月13日、14日には辺野古、キャンプシュワブ・ゲート前テントの前と那覇でもコンサートを行います。また5月31日コンサート開催前の午後

2時から首相官邸前で古謝美佐子さん、海勢頭豊さん、梅津和時さん、渋谷知らズオーケストラ有志、山城博治さん、稲葉博さん、金城実さんら(参加者は予定を含む)を含め、抗議のページェントを行います。コンサートと共に官邸前アクションに参集されることをお願い申し上げます。

<1ページからの続き>

当な労働基本権であるストライキやコンプライアンス宣伝行動を強要や威力業務妨害にでっち上げたもの。しかも現場に居合わせていない組合員を「目的の共謀」をもって逮捕する共謀罪の先行適用と言えるものだ。▼一握りのセメント独占と建設ゼネコンに挟撃されて搾取されて来た生コン産業界、協同組合による「共同受注・共同販売」を進めて生コンの単価適正化を進めてきたのが関ナマ支部だ。▼中小企業等協同組合法は協同組合による価格カルテルを独禁法の適用除外として保護している。中小企業との共同を潮流の違う労働組合との政策共闘で推し進める関ナマ支部の産業民主主義の闘いは権力・資本を心底恐れさせた。▼八二年、時の日経連会長大槻文平(三菱鉱業セメント)は『資本主義の根幹に関わる運動』であり『関ナマに箱根を越えさせるな』と吠えた。▼戦線の拡大が必要だ。対立の思想から予断で判断する者を散見する。マルティン・ニーメラーの言葉を思い出そう。(全印総連ユニオン京) *全印総連機関紙420号の一面コラム「カーソル」から転載

レイバーネット日本の会員になりませんか

会員になれば、自分でニュースやイベント、お知らせを提供できます。レイバーネット日本は組合や個人が全国にアピールできる絶好の場所です。

年会費 3,000円
(B会員=5,000円 通常+TVサポート)

現会員数 570名

ウェブアクセス 1日6,000

郵便振替 00150-2-607244 レイバーネット日本
銀行口座 きらぼし銀行 小竹向原出張所
普通 5002960

入会申込用アドレス apply@labornet.jp.org
電話 03-3530-8588 ファクス 03-3530-8578